

復刊 & 本寄贈プロジェクト

クラウドファンディングリターン品の一例

【本なし応援コース】 1,000円～

1,000円から応援いただけます。リターン品として、お礼メールをお送りいたします。
(お届け予定：2019年9月)

【早得コース】(50口限定) 1,500円

50口限定でお得にご購入いただけます。リターン品として、お礼メールと『情熱の気風』初版本1冊
(定価2,000円(税別))を先行送付いたします。(お届け予定：2019年9月)

【高校寄贈コース】 2,000円

リターン品として、お礼メールと知多半島の高校に『情熱の気風』初版本1冊をお届けします。
(お届け予定：2019年9月)

【復刊応援コース】 10,000円

リターン品として、お礼メールと『情熱の気風』初版本1冊を先行送付いたします。
初版本巻末にお名前を記載いたします。(お届け予定：2019年9月)

【「盛田昭夫のルーツを探る」ツアーコース】(20口限定) 25,000円

リターン品として、お礼メールと『情熱の気風』初版本1冊をお届けします。『情熱の気風』にも登場し、
鈴溪義塾に縁の深い盛田昭夫氏のルーツを探りながら、鈴溪義塾を知ることができる場所を巡るツアー。
開催日：2019年10月19日(土) 小鈴谷小学校(鈴溪資料室)等・愛知県常滑市

以上のリターン品は変更されることがあります。詳細はCAMPFIREサイトをご確認ください。

CAMPFIRE

復刊 & 本寄贈プロジェクト

2019年5月24日

～6月24日開催!

詳細は、下記QRコードから



クラウドファンディングとは?

クラウドファンディング(crowdfunding)とは群衆(crowd)と資金調達(funding)を組み合わせた造語で、インターネットを通して目標額を設定し、プロジェクトを発信することで、想いに共感した人や活動を応援したいと思ってくれる人から資金を募る仕組みです。

本プロジェクトはAll-in方式で実施します。目標金額に満たない場合も、計画を実行し、リターンをお届けします。

本物の教育とは、こういうこと。

「学問の目的は実行の二字につきまします。行われな
い学問など、机上の空論にすぎません。それを
死学と言います」

ほそいへいしゅう
細井平洲 (1728-1801)

江戸時代の儒学者
米沢藩(今の山形県米沢市)中興の祖と言われる
上杉鷹山の師として、多くの教えを残す



「学問は自分だけのためにやるものではありません。
田舎の子供たちに夢を与えて、世のために
役立たせるのが学問だと思ひます」

もりた めいき
盛田命祺 (1816-1894)

溝口幹を伊勢より招く、偉業多数
盛田本家 第11代 久左エ門



「教育の最終の目的は、子供の性格に適った学問
を身につけさせて、将来世の中で何が出来るか
を教えることだと思ひます」

みぞぐち みぎ
溝口幹 (1852-1933)

鈴溪義塾塾長・鈴溪高等小学校長
生涯 小鈴谷で教育に当たる



(『情熱の気風』鈴溪義塾の誕生 盛田命祺と溝口幹より)

主催 フィールドアーカイヴ株式会社

江戸時代に東海市から生まれた平洲の教育の核＝種は、時を経て 鈴溪義塾で芽を出し、そののち各界で大きな花を咲かせた

【『情熱の気風』について】

本書は、平成15年2月3日から同16年3月13日まで335回にわたって中部経済新聞に連載された作品の一部加筆訂正を加えたものです。2004年中部経済新聞社より初版第1刷発行。
“私の友人で現東海市長の鈴木淳雄氏(半田高校の同級生)から、「小鈴谷村の鈴溪義塾を知っているか。明治の初めに英語や中国語などすごい教育をやっていた塾だ」と聞かされて、取材をはじめた。(中略)中部経済新聞の中村新一社長の好意で新聞連載が始まり、無事に1年1カ月の連載を終了し、こうして単行本にまとめ上げることができた。結果として知多半島の近代史の一部を書き残すことができたことは、筆者として望外の喜びである”

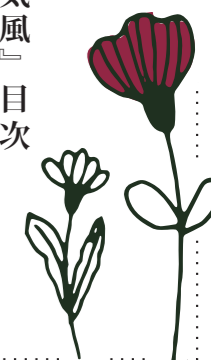
(『情熱の気風』あとがきより)

【『情熱の気風』著者 二宮隆雄 略歴】

昭和21年愛知県半田市生まれ。半田高校、立教大学経済学部卒。高校時代よりヨット競技を始め、全日本選手権15回優勝、世界選手権に10回出場したヨット選手。オリンピックの候補選手にもなる。平成2年講談社の「小説現代新人賞」を『疾風伝』で受賞。その後三重県に移住して作家生活に入る。『霸王の海 海将九鬼嘉隆』『海援隊 烈風録』『海を奪る』など著書多数。平成19年9月逝去。享年61歳。

『情熱の気風』目次

- 序 鈴溪義塾の歴史と塾生たち
- トヨタ危機に立ち向かう 石田退三
- ソニーの苦境を乗り切る 盛田昭夫
- 鈴溪義塾の誕生 盛田命祺と溝口幹
- 敷島パンで食糧難を解決 盛田善平
- 知多の産業と文化を生む ねのひ・盛田家
- 食と健康に貢献 ミツカン・中村家
- 多産鶏で卵の世界記録樹立 榎本 誠
- 洋裁教育に一生を捧げる 吉房千代
- 命祺のこころの師 森田悟由禪師
- 日本財界の誇り 平岩外四
- 不屈の財界人 岩田武夫
- 常滑生まれの哲学者 谷川徹三
- あとがき



CAMPFIRE

復刊 & 本寄贈
プロジェクト

2019年5月24日

～6月24日

開催!

このチラシを
めくると「序」
が読めます

【鈴溪義塾とは】

明治21年、盛田家の11代久左エ門(のち命祺)によって愛知県知多郡小鈴谷(こすがや)村に創立された私塾。明治21年から40年までの19年間に約350名の塾生が巣立っている。現在の小学5年から中学2年の生徒を対象に、英語や数学、簿記などの教科を教えた。授業のレベルは現在の高校並みで、進取に富んだ教育内容を採用した。

フィールドアーカイヴ株式会社(代表:木原智美)は、絶版本の復刊専門の出版社です。「先人の叡智をいまの力に」を理念に、特別な装丁ではなく、手軽に手元に置いておける本を心掛けています。本を出したい人と、世に広めたい人と、それを買いたい人と。それぞれの橋渡しをしながら、再び絶版しないための仕組みを作り、普及のお手伝いをしていく出版社でありたいと考えています。

ホームページ <https://publ.field-archive.com>
Facebook <https://www.facebook.com/groups/jounetsufukkan/>
CAMPFIRE <https://camp-fire.jp/projects/142701/preview?token=3ixtafahm>
お問い合わせ info@field-archive.com

序 鈴溪義塾の歴史と塾生たち

名古屋から南に伸びた知多半島。その伊勢湾側にある小鈴谷村には、日本を代表する世界企業の「トヨタ自動車」と「ソニー」、そして日本人の食糧問題解決の一助をなした「敷島製パン」を生んだ『核』がある。だがその事実中部地方はおろか、知多半島に住む人々にもあまり知られていない。

トヨタ自動車とソニーと敷島製パンの創業期を探っていくと、この三大企業には切っても切れない深い人間的なつながりがあることがわかる。

それは創業期の苦闘を乗りきった三人の人物にいきつく。

一人目はトヨタ自動車の「大番頭」と呼ばれた石田退三である。

豊田自動織機の社長であった石田は、昭和二十五年にトヨタ自動車が倒産の危機にみまわれた「トヨタ危機」のとき、トヨタ自動車の社長となって倒産の危機を乗り越え、世界のトヨタの礎を築いた中興の祖である。

石田は知多郡小鈴谷村大谷（現常滑市）で生まれた。生家は先祖代々の農家で、小さい頃から負けず嫌いの腕白であった。伊勢湾に面した小鈴谷村は、対岸のあなたに鈴鹿の山々を望み、その山なみに夕陽が落ちるころには、伊勢湾が美しい黄金色に照り映える。

少年時代を温暖で美しい小鈴谷村ですごした石田は、綿糸・綿布の商社勤めをへて豊田自動織機に移り、トヨタ自動車が世界に羽ばたく磐石の基礎づくりをした。

二人目は敷島製パンを創立した盛田善平である。

善平も小鈴谷村で生まれ育ったが、二十四歳のときに半田の「ミツカン酢」の当主の中埜又左衛門の依頼でビール醸造に乗り出した。

苦勞の末に「カプト・ビール」の売り出しに成功した善平は、やがてドイツ人技師を雇って製パン業界に乗り出していく。

三人目はソニーの創業者の盛田昭夫である。

知多半島の小鈴谷村で、江戸期から三百五十年以上続く造り酒屋盛田家の十五代目として生まれた昭夫は、戦後まもない東京で、

「人は得意なことをやるのがいちばん強い。私は電子工業（エレクトロニクス）の会社をつくり、自分達しかなできない仕事をやる」

と考えて井深大と東京通信工業（現ソニー）を興して、最初の製品である紙製のテープレコーダーを作った。

世間の評価はさんさんだった。人の声を紙テープにとつて聞くのはおもしろい。だが電気のおもちゃにしては高すぎると酷評されて、紙製のテープレコーダーはまるで売れず、会社は資金的な危機に直面した。その後、トヨタ自動車とソニーは世界企業に発展し、敷島製パンは日本で確固たる地盤を築いたが、石田退三と盛田善平、そして盛田昭夫の三人に、一体どういうつながりがあるというのか?…

それは小鈴谷村の『教育』にいきつく。

明治維新を迎えたとき、小鈴谷村の庄屋を代々つとめる盛田家十一代目の久左エ門（のちに命祺）は、これからの日本人は教育が必要だと考えた。

「このひなびた田舎の小鈴谷村にも、やがて時代の波は押し寄せてくる。それを先取りするのは学問しかない」

ると、驚くべき高いレベルの教育がなされていたことがわかる。

鈴溪義塾の教育程度が高かったのは、塾長の幹の力によるが、幹は学問だけを教えたのではない。教育者として自分はどうかあるべきかを考えて、人徳の高さで生徒を導こうとした。

のちに「標準語の父」と言われた文学博士の石黒魯平は、恩師の幹をこう評している。

「私は明治三十年から三年間、鈴溪高等小学校の溝口先生の許に通いました。いたずらをするとき大きな扇子を振って『いかん、いかん』と叱るばかりで、何の文句も仰せられなかった。（中略）…私は先生の著書によって幾何書法を学び、先生の御指導で物理化学の実験を行し、先生の御方針によってナショナルリィダー第四卷まで学びました。

これらはその後世に出てみて、非常に高い、非常に進んだ教育であったと思わざるを得ないものであります」

石黒魯平は幹の海のように大きな人格と、その高い教育内容を賞賛している。

石田退三と盛田善平は鈴溪義塾で学んで、実業界で大きく羽ばたいた。他には文部省の事務次官として教育改革に尽力した伊東延吉、戦艦大和の五代艦長の森下信衛など多数の人材を輩出した。

鈴溪義塾で熟成された「教育」の空気は、隣の常滑に伝わった。そこから哲学者の谷川徹三、東京電力会長で経団連会長を務めた平岩外四、東芝会長の岩田式夫などを輩出した。

教育は一朝一夕にできることではない。知多半島という土壌にまかれた教育の種が、長い時をへて地上に芽を出す。

そのとき命祺の頭に浮かんだのは、伊勢神宮神官の息子の溝口幹であった。幹は伊勢では評判の秀才として知られ、性格も温厚な若者で、教育者としての資質を備えていた。

明治五年に命祺は幹を小鈴谷村に招いて、

――鈴溪義塾。

を創立して知多半島の子供たちの教育を始めた。

盛田昭夫の四代前の当主である命祺は、志と情熱をもった有徳人として知られ、貧しい子供に学費を援助して、知多半島の教育向上に尽くした。

命祺からすべてを託された幹は、期待どおり鈴溪義塾で学問を教えながら、教育を通して人的資源を育てはじめる。

鈴溪義塾の歴史は、明治五年に学制がしかれたとき、小鈴谷村郷学校として産声を上げて、同二十一年に私立鈴溪義塾となり、のちに鈴溪高等小学校になった。これらを総括して「鈴溪義塾」と呼び、一貫して幹が塾長（校長）を務めた。

命祺と親交があった福沢諭吉の慶應義塾と較べると、鈴溪義塾は現代の小学校高学年から中学校低学年の少年少女の教育の場であった。

にもかかわらず教育内容は抜群に高く、文明開化を迎えたばかりの日本の田舎の小鈴谷村で、いまの高校に匹敵する英語、数学、理科、国文、漢文、簿記、体操などを教えた。

英語は高等小学校では必須科目に入っていなかったが、一年時（現在の小学五年生）に学習が始まっていた。また体操の時間には、当時ほとんど行われなかった野球も教えていた。

ある新聞社の取材では、鈴溪義塾のあった小鈴谷村を『尾張の教育村』としたうえで、

目を東海市に移してみる。江戸時代に平島村（東海市）から、細井平洲という偉大な学者が生まれている。

細井平洲はアメリカ元大統領のJ・F・ケネディが尊敬した上杉鷹山の学問の師である。平洲は学問によって人を育て、善政を扶けた実学の人である。

江戸時代に東海市から生まれた平洲の教育の核Ⅱ種は、時を経て鈴溪義塾で芽を出し、そのち各界で大きな花を咲かせた。

命祺は長州の松下村塾の品川弥二郎、井上馨らとも親交があった。明治維新の起爆剤となった松下村塾に比しても、鈴溪義塾は経済面と文化面で、それに匹敵する足跡を刻んだ塾だと言って過言ではない。

現在は日本人がやや自信を喪失している時代である。こういう混乱の時代こそ、鈴溪義塾から育った知多の偉人たち、あるいは近隣から世に出た先人たちの歴史を、これから始まる物語の中に見いだして、いまいちど勇氣と志と情熱をもってもらいたい。

二宮隆雄著『情熱の気風』より

『お百姓の老人でもかなりの英語が出来、数学、国語にいたるまで達者だという珍しい農村がある。それが小鈴谷村で、村には明治五年から立派な学園があった』と鈴溪義塾の学風を伝えている。

鈴溪義塾の卒業生である石田退三の『商魂八十年』には、鈴溪義塾の高い教育内容が記述されている。『(前略)……私には一つの郷土自慢がある。それは当時としては、いわば「知多郡の最高学府」とも称すべき高等小学校が、わが小鈴谷の地に所在していたことである。子供心にもこいつばかりは大いに自慢したものである。

小鈴谷村は古くから造り酒屋（現在子の日松）があり、当時の主人の盛田久左エ門は資力と見識があり、明治初年に伊勢から溝口幹先生を招いた。そして鈴溪義塾と呼ぶ私立学校を開き、地方青少年の育英指導にあたらしめた。それが鈴溪高等小学校になり、知多全域の進学少年はすべてここに集まった。
実際のところ、その頃の高等小学校は、今日の大学にも勝るエリート意識が強く、教育の程度も高かった。国語、理科、漢文はもちろん、数学は代数、幾何に及び、英語は英文法とナショナルリィダーの第四巻であり、他には法制・経済という科目まであった。

創立以来の溝口校長はまことに立派な教育者で、国漢文はもちろんのこと、神官出身に珍しく数学に強く、ドイツ文法から物理学まで堪能であった。私ほのちに滋賀県立一中に入学するが、教育内容が鈴溪義塾の復習にも似た感じで、おかつたるく感じたのを覚えている。それ一つを見て鈴溪義塾の教育内容の高さが証拠立てられる。(後略)』

その当時の教科書が、いまも小鈴谷小学校に保存されている。英語も数学もすべて墨書された教科書を見



鈴溪義塾前にて